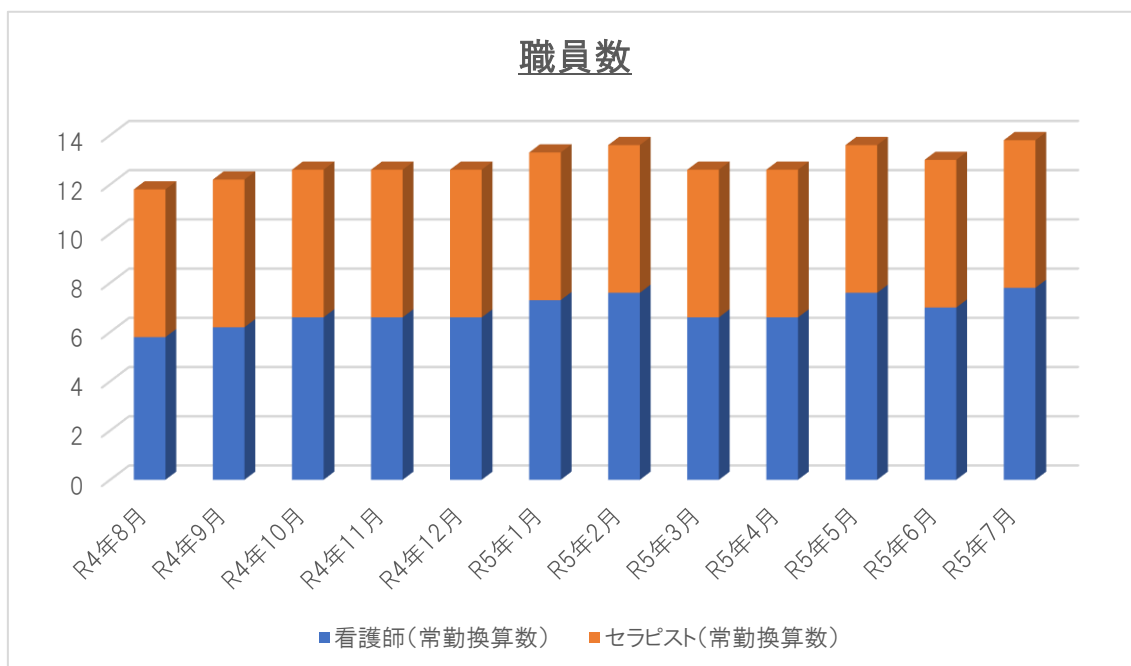
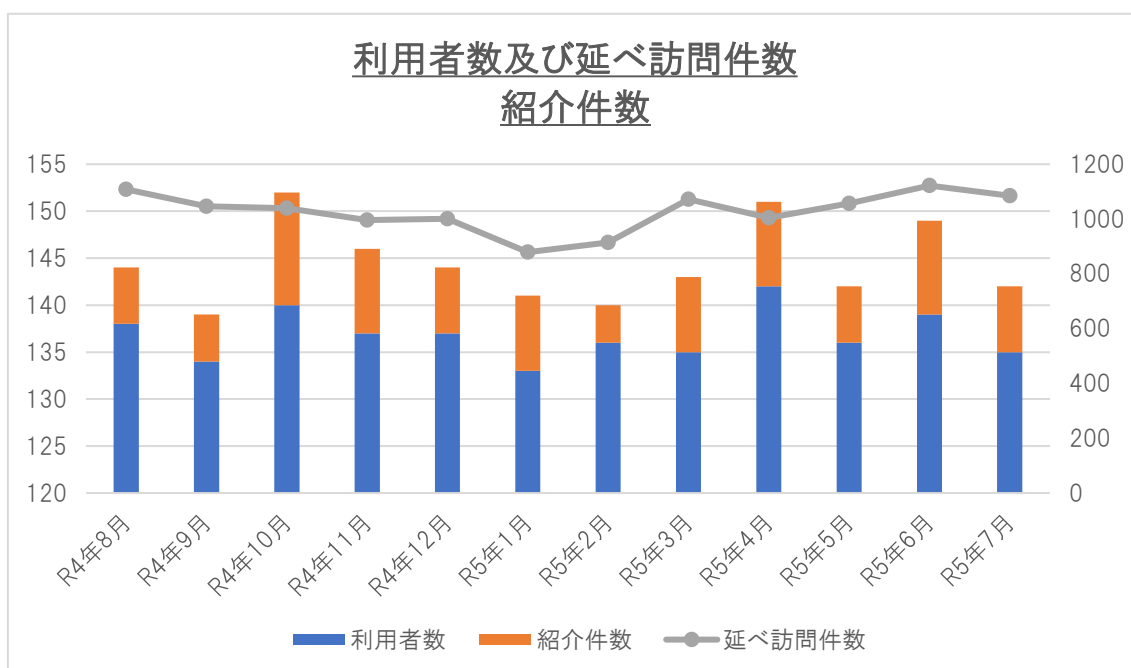


R4年8月～R5年7月(統計:訪問看護ステーションみやま)



スタッフの増員を図り、受け入れが迅速・柔軟に対応できる体制作りを行っています。また、特にみやま市は訪問看護に従事する看護師の偏差値 42(2022年)と少ない状況の中、支援体制が持続可能なものにするため、今後も看護師の安定的な確保のための様々な方策を考えています。

質の維持・向上を図るため、e ラーニングなどの off-JT と同行訪問する OJT を組み合わせて教育しています。

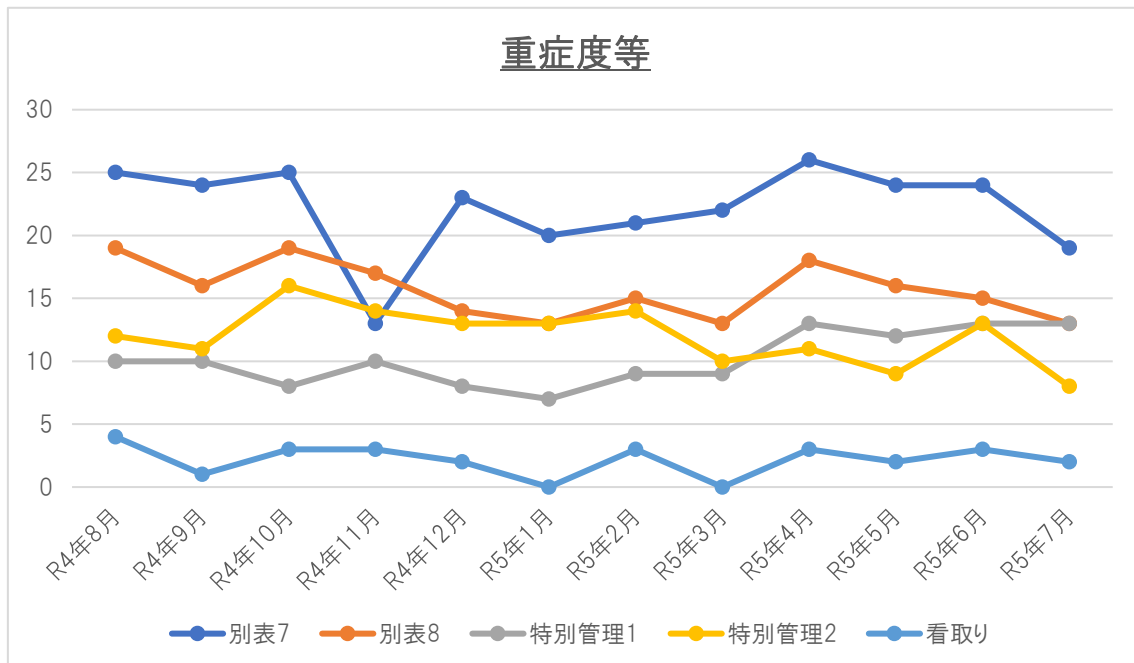


看取りや入院等で増減するものの、延べ 1,000 件/月程度で推移しています。

紹介いただく件数は、平均 7.5 件/月で推移しています。

看護師の増員と利用者数の増加が比例していません。医療機関や行政、ケアマネージャーなど関係機関への周知・営業不足及びみやま市内外に新規の訪問看護ステーションが開設されたことなどが要因と考えています。当事業所の強みをアピールすると共に、訪問看護が身近なものになるために、具体的な役割などを持続的に提案していきます(75 歳以上 1,000 人あたり介護施設・高齢者住宅利用者数は偏差値 50 と全国平均レベル、一方で訪問看護利用者数は偏差値 41 と少ない状況。日医総研ワーキングペーパー, 2023 年 4 月第 6 版)。また、ICT などを活用した連携を模索していきます。

令和 5 年 10 月から在宅支援セミナーを再開する事で、地域のリソース全体の底上げを図っていきます。



看取り数は、26 件/年です。みやま市を中心に筑後市・柳川市・大牟田市などにも伺っています。

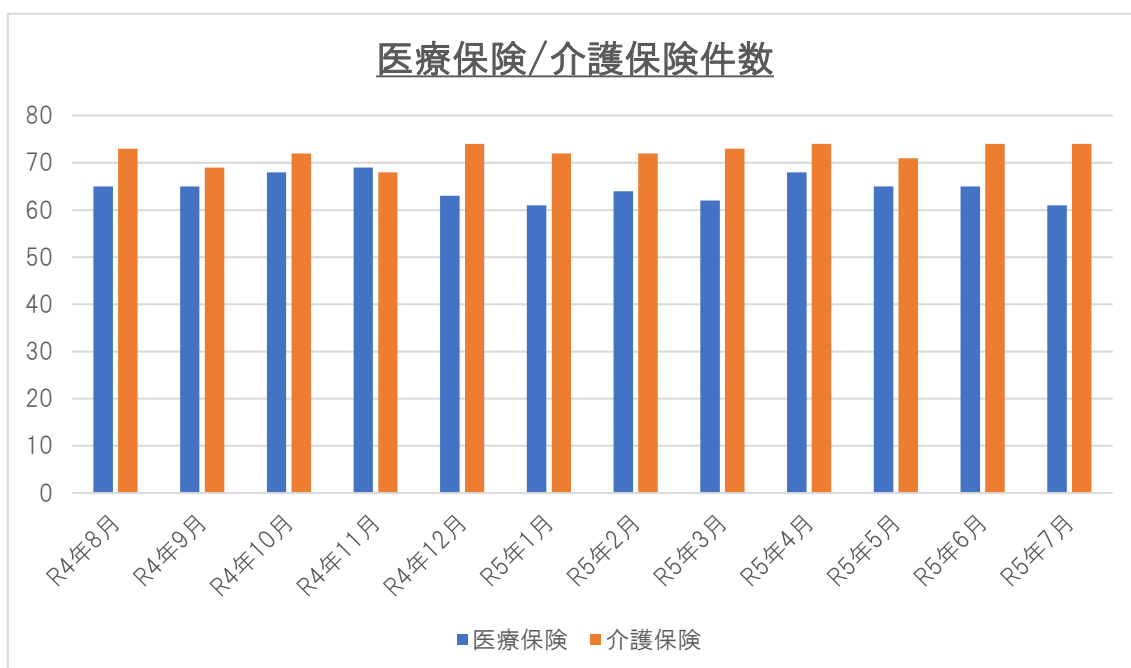
後述しますが、ターミナルケア・難病ケア・精神疾患・認知症ケアなど多岐に渡る疾患を見ています。セラピストは 6 名在籍していますので、亜急性期～維持期のリハビリ・緩和リハなどにも対応しています。看護師とセラピストがカンファランスをしながらより良い支援を目指しています。もちろん、訪問看護のみでは在宅医療・介護・福祉は対応できません。

TPN 管理(HPN ポンプ)・ストマ管理(コロ・ウロ・イレオ)・創傷/ドレーン管理・PCA ポンプ管理などにも対応しています。

病院・クリニック・ケアマネージャー・相談支援専門員・訪問介護・行政などと連携して安心・安全に療養できる体制を整えています。

災害時などに、働くスタッフや利用者の方の安全を確保するために、BCP(事業継続計画)を策定しています。今後も気候変動などの状況をみながら改定していきます。

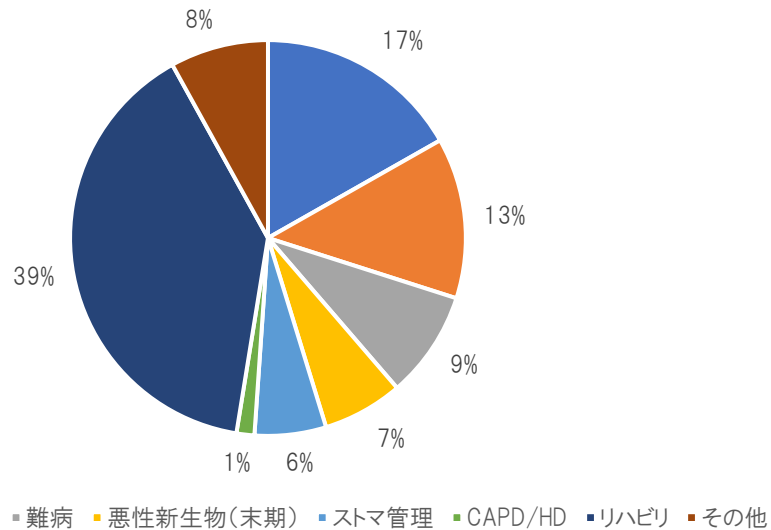
医療的ケア児への支援が課題です。地域のニーズに応えるために鋭意努力していきます。



高齢化率が高い地域でありながら、介護保険での訪問看護件数が少ない原因として、①通所介護利用(施設数が多い)や施設入所率が高い、②訪問看護の活用方法など認知度が低い、③みやま市や近隣市に訪問看護事業所が増加した事などが挙げられます。

地域包括ケアシステム、その先の地域共生社会に向け、一助を担うために訪問看護への理解を深めてもらう活動を行います。(2023/10～)

## 主な傷病等（R5年7月時点）



精神疾患の中で最も多い病名は統合失調症、最近では発達障害児の相談も増えています。

認知症の大半は、アルツハイマー型認知症です。認知症ケアには力を入れています。

神経難病の内訳としては、筋萎縮性側索硬化症/パーキンソン病関連疾患/脊髄小脳変性症/多系統萎縮症など多岐に渡ります。

悪性新生物(末期)の場合は、在宅でお看取りするケースが7割以上を占めます。

その他の内訳としては、糖尿病の方の支援・輸液管理・ドレーン管理・膀胱留置カテーテル交換及び膀胱洗浄・創傷処置などを必要とする方々です。

利用者さんの支援だけでなく、家族支援も重要な視点となります。

ご利用者・ご家族・連携する方々へ満足していただける様に努力していきます。

**選んでもらえる事業所を目指します！**